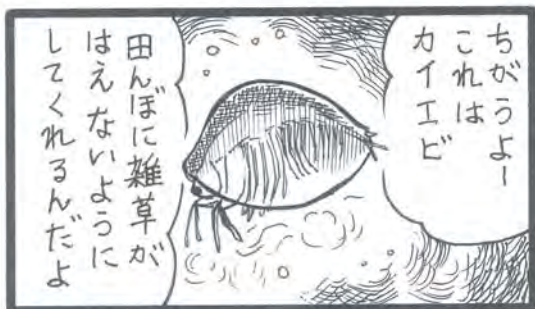
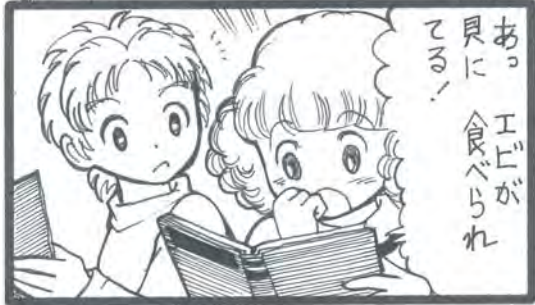
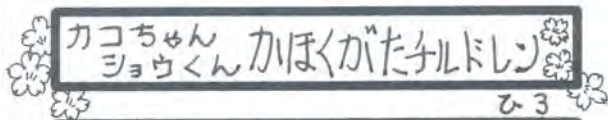


第35回 カイエビ



なんとも不思議な名前の生きものです。貝なのかエビなのか、見た目は二枚貝のようですが、行動を観察していると、貝の中からいくつもの脚を出して泳ぎ回ったりします。

よく見るとミジンコを大きくしたような生きもので、実際にミジンコと同じ甲殻類（甲殻亜門）の中のひとつのグループである鰓脚綱に属しています。1 cmほどの大きさになりますので、多くのミジンコ類よりは遙かに大きいのですが、基本的な体の構造はミジンコとよく似ています。鰓脚綱を含む甲殻類にはエビ類も含まれています。そして甲殻類はもっと大きな節足動物門というグループに属していますが、一方、二枚貝は節足動物門には属しておらず、別のグループである軟体動物門に属していますので、カイエビは、まったく貝の仲間ではありません。かといって、エビの仲間（軟甲綱十脚目）からもすこし離れていますので、この生きものを説明するときカイエビという名前は困りものです。観察会では、「二枚貝のような姿をしています。貝の仲間ではなくて、かといってエビでもなくて、実はミジンコに近い仲間です。」というような説明をしています。参加者の皆さんは、不思議そうな顔でこの生きものをじっくり見つめ、やがて納得したように顔が緩みます。

日本に住むカイエビの仲間には何種類かいますが、よく見るのは種名がカイエビというもので、その他、すこし小さいトゲカイエビなどがいます。いずれも田んぼによく発生します。

河北潟の周辺では、カイエビが発生している田んぼはそんなに多くありません。発生する田んぼと発生しない田ん

ぼの違いはよく分からないところもありますが、農薬を使わず堆肥で育てている私たちの田んぼでは、昨年たくさんのカイエビが発生しました。畦の除草剤を使わず農薬の空中散布をしていない生きもの元気米の田んぼでもカイエビを見ることが多いのですが、農薬を使った慣行農法の田んぼでもときどきカイエビを見ることがありますので、農薬の使用の有無とカイエビの発生との関係は必ずしもはっきりしていません。カイエビは土壌の乾燥を経験することが卵が孵化する条件ということで、水田の土壌条件なども発生の有無に影響しているかも知れません。それでも減農薬や無農薬の田んぼには、カイエビの発生する割合が高く密度も高い場合が多く、田んぼの中のカイエビの有無を安全安心のひとつの指標としても良いと思います。

この生きものは、東アジアでは恐竜の時代に大繁栄したことが知られており、この時代の地層からは化石が大量に見つかるようです。今度、田んぼをゆっくり覗いてみましょう。田んぼに湧く生きた化石が見つかるかも知れません。（文：高橋 久）